

# 概要版

第2次 デジタル田園タウン 構想事業

基本分類針

### 【デジタル田園タウン構想事業の基本理念】~Mission~

#### イマとミライをつなぐ、共生社会を支えるデジタル

#### 理念の意図

まちづくりの基本理念である「持続可能なまちづくり」は、「健全性」と「良好な生活環境」の維持により実現されると解釈しました。また、くらしは現在だけではなく、当然に未来へとつながるものです。

未来に向けては、「情報通信技術の進化」「分散化」がキーワードとなります。かつては大型コンピューターにデータが集約されていましたが、これがパーソナルコンピューターに進化し、携帯電話、そしてスマートフォンへと姿を変えています。これにより、個人は単に情報を受信することにとどまらず、自らのアイデアを気軽に発信できる時代が到来しました。すなわち、サービスの受け手であると同時に、生産者にもなり得る時代です。分散化された基盤のもと、自立した個々人の創意工夫が大いに発揮され、互いの生活を支えあうことができるよう、理念を定めました。

また矢吹町は、まちづくりの基本理念の中で「住民本位のまちづくり」を掲げており、デジタル田園タウン構想事業基本方針においても住民の視点やニーズを最優先に考える「住民本位のサービス提供」を目指してまいります。

「デジタル田園タウン構想事業」は、第7次矢吹町まちづくり総合計画における 重点方針の1つです。デジタルも活用した住民本位のまちづくりの総合的な指針 となるよう、総合計画の理念に基づき、当事業の基本理念を定めています。

## 基本理念

キーワード

住民本位持続可能

情報通信 技術の進化

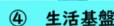
分散化

まちづくりの柱

① 子育て・教育・文化・スポーツ

② 地域産業·雇用







行財政

横串として のデジタル

#### 人が集い みんなで育み・学び・支え合う デジタル田園タウン



デジタル田園タウン構想事業は、総合計画で定める6つの柱を支える、重点事業のひとつです。また当事業は、総合計画で定める将来像の実現に向けて取り組むものであることから、同計画の将来像である「人が集い みんなで育み・学び・支え合うさわやかな田園のまち やぶき」のビジョンに準じて、個別事業としての将来像を定めたものです。

まず、柱①では、児童家庭相談システムや医療相談アプリをはじめ、スポーツ×デジタル振興プロジェクトとのデジタル連携、小中学校におけるデジタル教材および健康観察システムの利活用などを実施します。

次に、柱②では、スマート農業技術導入、タウンプロモーション などを実施し、柱③では、見守りサービスプロジェクト、健診予 約システムの利活用を推進します。

また、柱④および柱⑤では、AI活用型オンデマンドバスの利用推進、各種手続のオンライン化、また福島県データ連携基盤事業にも参画しながら防災アプリと環境アプリの利活用を推進します。そして柱⑥では、より利便性の高い行政サービスを提供するための基礎として、各種業務効率化に資するシステム等の導入を行います。

「デジタル田園タウン構想事業」の基本理念に基づき、

「デジタルも活用して矢吹町はどのようなまちになりたいか?」を将来像として定めました。総合計画で定める6つの柱を支え、かつ横串として機能するデジタルの力を最大限活用することで、住民の皆様に価値ある暮らしを提供していきます。

## 将来像

キーワード

価値創出6つの柱

横串としてのデジタル

## 地域デザイン領域 (≒地域DX) WiFi D X Ehat 庁内デザイン領域 (≒行政DX)

前述のミッションとビジョンに基づき、施策を進めるうえでの全体像を示します。

総合計画で定める6つの柱のうち、「⑥行財政」を除く5つは、都市部を上回る利便性と魅力を備える新たな地方像を実現すること、また地域の豊かさを活かしてより幸せに暮らせる社会に転換するためのものであり、いわば地域をデザインしていくための重要な要素です。したがって、「⑥行財政」を除く5つを【地域デザイン領域】と定義し、これを推進します。

次に、柱のうち「⑥行財政」については、主に 町組織の変革を担うものですが、地域活動や 地域における人づくりの基礎となるほか、 堅実な財政基盤による持続可能な行政運営を 推進していくうえでの基礎となるものです。 したがって【庁内デザイン領域】と定義し、 【地域デザイン領域】を支えるものとして推進 します。 全体像

キーワード

地域デザイン

庁内デザイン

「デジタル田園タウン構想事業」の基本理念と将来像に基づき、

「具体的になにをやっていくか?」を全体像として定めました。矢吹町では、デジタル変革は既に起こっているものとし、変革の先に「なにをするか」すなわち「まちをどうデザインしていくか」という考えを大事にしています。基本的には、デザイン領域を地域と庁内の2つの領域に分け、地域においては6つの柱のうち、行財政を除く取組すべてを、庁内においては行財政の取組を積極的に実施することで、住民の皆様がより幸せに暮らせる社会をつくっていきます。



まちづくりの柱

子育て・教育・文化・スポーツ

総合計画重点方針 子育で支援事業

#### ねらい

まず、「子育て・教育・文化・スポーツ」の観点では、子育てしやすい環境整備と、乳幼児から小・中学校における学びの連続性を活かした接続に取り組み、教育の充実を 図るとともに、子ども達が地域の中で健やかに成長する環境整備を推進します。また、人生のあらゆる場面で学習できる機会と場を提供し、歴史・文化の薫るまちを目指し ます。さらに、生涯スポーツの振興及びスポーツを活用したまちづくりを推進します。

次に、総合計画の重点方針である「子育て支援事業」の観点では、「若い世代、子育て世代に選ばれるまち」を目指して、子どもを安心して産み育てられる相談体制の構 築や経済的な支援の拡充等、子育てしやすい環境整備に取り組み、常に子育て世代の視点に立ち、家庭だけでなく、職場や地域全体で子育て支援をし、「子育てをするな ら矢吹町」と選ばれるまちを実現し、移住定住者の増加につながる取組を進めていきます。

#### 施策概要

児童家庭相談システムの適切な運用や、オンライン相談窓口を通じ、育児の負担軽減と支援の充実を図ります。また、各種イベントの開催により親子の絆を深める機会 を提供するほか、「スポーツ×デジタル振興プロジェクト」との連携も行い、子どもを中心にあらゆる世代が繋がることのできる環境を形成します。

教育の観点では、デジタル教材やタブレット端末を活用した学習を積極的に推進し、児童生徒が変化の激しい新たな時代に対応できるための資質・能力を高めます。 また、情報通信環境の整備を推進します。

#### 具体的施策

児童家庭相談システム運用

親子参加型のデジタルイベント開催

全世代向け子育てコミュニティの整備

健康観察システムの利活用推進

オンライン相談システム導入・運用

スポーツ×デジタル(子どもの発達データ利活用)

デジタル教材やタブレット端末の利活用推進

すべての子どもがアクセス可能な教育環境の整備

「デジタル田園タウン構想事業」の基本理念・将来像・全体像に基づき、「じゃあ具体的になにをやって いくか?」を具体的施策として定めました。

「子育て・教育・文化・スポーツ」の観点では、特に「若い世代、子育て世代に選ばれるまち」を 目指し、医療相談アプリを普及促進する「オンライン相談システム導入・運用」により子育てしやすい環境を整備するほか、「スポーツ×デジタル振興プロジェクト」との連携も行い子どもを中心にあらゆる 世代が繋がることのできる環境をつくります。

### 地域デザイン

具体的施策 (子育て・教育・文化・スポーツ)

### オンライン 医療相談

スポーツ×デジタル 振興プロジェクト

子育て・教育 環境整備



まちづくりの柱

地域産業・雇用

健康福祉 生活基盤

環境

総合計画重点方針

公共交通推進事業

#### ねらい

主要産業である農業を維持していくため、担い手不足等の影響による課題解決に努めながら、効果的な農家支援に取り組むとともに、医療・福祉・介護の連携を強化し、すべての世代が心身ともに健康で自分らしく暮らせる健康長寿のまちを目指します。

また、防犯・交通安全・防災対策を充実させ、誰もが快適に暮らせる安全・安心なまちを整備します。さらに、住環境の支援を強化し、移住・定住者から選ばれるまちづくりを進めます。加えて、自然環境の保全と活用により、癒しを感じられる自然と調和したまちを目指すとともに、ごみ削減やCO2削減を推進し、資源循環型のエコなまちを実現します。なお、高齢者の生活環境の向上を図るため、AI活用型オンデマンドバスの運行により、まちづくり総合計画の重点方針である地域公共交通の充実を進めます。この取り組みは、子どもたちの登下校や部活動の移動手段としての活用も視野に入れています。

#### 施策概要

衛星データとAIを活用して農地の耕作状況を可視化することで、農地パトロール調査の効率化を実現します。またビーコン等を利用した、子どもや高齢者の見守りサービスを 展開していくために、教育委員会を中心に、財政的負担が少なく持続可能な体制・システム構築の可能性を検討してまいります。加えて、毎年実施する各種健康診査における 予約のオンライン化推進や、各種届出などのオンライン化推進等、住民サービス向上のための取り組みを順次進めます。

防災・環境の観点では、福島県防災アプリや防災ポータルの利活用により、災害への万全な備えや有事の適切な避難行動につなげます。また、福島県環境アプリの利活用により、地球温暖化対策にもつながる「ごみ減量化」や「省エネ」の推進をします。

地域公共交通の観点では、AI活用型オンデマンドバス「のるーと矢吹」の普及促進を行い、免許返納後の高齢者等の移動手段を確保します。当サービスでは、乗降場所及 び運行ルートなどのナビゲーションを車載タブレットで行い、少ない車両での輸送力最大化を図ることで、慢性的なドライバー不足を解消します。なお将来的には、データ連携 基盤との接続、矢吹町商工会と連携した利用者の商店会での買い物の割引、スクールバスとしての運用、MaaSによる様々なサービスとの連携構築等の横展開を行うことにより、デジタル基盤の強化ならびに移動の効率化を目指します。

#### 具体的施策

スマート農業技術の導入・運用

見守りサービス推進プロジェクト

検診予約システム及び予約受付コールセンターの導入・運用

住民サービスのオンライン化推進

防災・環境アプリの普及促進

AI活用型オンデマンドバスの普及促進

| 「デジタル田園タウン構想事業」の基本理念・将来像・全体像に基づき、「じゃあ具体的になにをやっていくか?」を具体的施策として定めました。

「産業・福祉・生活・環境」の観点では、特に「安全・安心に生活できるまち」を目指し、「スマート農業技術の導入・運用」を積極的に行うほか、高齢者等の見守りネットワーク強化のための通信機器導入などを行う「見守りサービス推進プロジェクト」を実施します。また住民の皆様のお出掛けを協力にサポートする「AI活用型オンデマンドバスの普及促進」を更に実施することで、移動手段の確保並びに慢性的なドライバー不足を解消していきます。

### 地域デザイン 具体的施策 (産業・福祉・生活・環境)

キーワード

スマート農業

見守りサービス

AIオンデマンド バス



まちづくりの柱 行財政

#### ねらい

堅実な財政基盤による持続可能な行政運営を推進していくうえでの基礎となる、庁内のデジタル変革を推進します。

具体的には、リモートワーク環境導入、業務改革(BPR)・業務改善の実施、職員のデジタルスキル向上支援などの実施により、業務効率化及び生産性向上を実現します。 庁内デザインの推進により、新たに生み出された余力、具体的には作業時間・費用・そして人的資源は、住民一人ひとりに寄り添った温かみのある「Face to Face」の対面 サービスに再配分します。

また、より深い議論や仕組みづくりを行う時間を確保することで、町職員の集合知で、総合計画の重点方針をはじめとする各種課題の解決にあたります。

#### 施策概要

セキュリティ対策を講じたリモートワーク環境の整備、国の基準に基づくネットワーク・セキュリティモデルの再構築、業務プロセスの見直しとデジタルツールの活用による業務 効率化、SNSやウェブサイトを活用した住民向け情報発信の多様化、そして職員のデジタルスキル向上を通じて、業務効率化及び生産性向上を実現し、住民サービスの質と 職員の働きやすさを両立する持続可能な行政基盤の構築を目指します。

#### 具体的施策

リモートワーク環境導入・運用

ネットワーク環境、セキュリティモデル見直し

BPR、業務改善の実施

つたわる・わかる・えらべる情報発信の実現

職員のデジタルスキル向上支援

「デジタル田園タウン構想事業」の基本理念・将来像・全体像に基づき、「じゃあ具体的になにをやっていく か?」を具体的施策として定めました。庁内デザインは、簡単にいうと「住民サービスの質と職員の働きやすさ を両立させる」ためのものです。

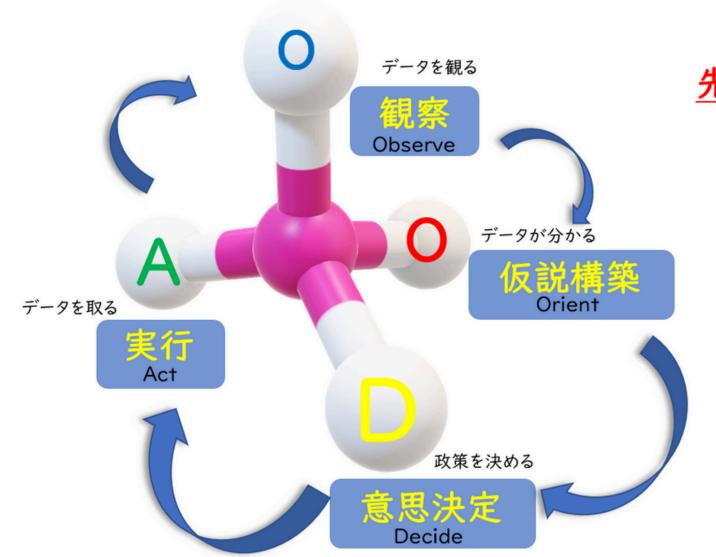
具体的には「BPR、業務改善の実施」により仕事の内容を見直すほか、「職員のデジタルスキル向上支援」の 実施により、業務効率化と生産性向上を実現します。これらにより生み出された時間や費用、マンパワーは、 住民の皆様一人ひとりに寄り添った温かみのある対面サービスに充てます。

## 庁内デザイン 具体的施策

業務効率化

生產性向上

Face to Face の対面サービス



#### 先行きが不透明で、将来の予測が困難

現状のリソースから<mark>最善の判断</mark>を下し、 スピード感を持って行動することが重要

DX時代における効果的な意思決定の 手段である「OODAループ」を活用

「第2次デジタル田園タウン構想事業基本方針」で定める具体的施策を実行していくにあたっては、「OODA(ウーダ)ループ」を活用します。

デジタル時代の世の中は変化のスピードが非常に早く、先行きが不透明で、将来の予測が困難となっています。 このことから、「計画」の重要性は認識しつつも、現象を「観察」することを大切にし、そのうえで「仮設構築、 意思決定、実行」へと繋げる、変化を恐れない柔軟な思考サイクルを回していきます。

# 意思決定の方法

キーワード

OODA

観察すること

時代に合わせた思考サイクル

# 製作·著作

# 企画・デジタル推進課 デジタル推進係